

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

社会福祉学部・社会福祉学科
西東 克介

作成日 2024年2月25日

1. 教育の責務

1999（平成11）年度から弘前学院大学社会福祉学部社会福祉学科に採用され本年（2024年）で25年となる。 政治学と行政関連科目、社会福祉科目のうち行政関連科目、そして教職科目を担当している。				
2023年度担当授業				
科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
政治学A	1～4年	講義	前期	政治学の基本的概念、政治、権力、民主主義、国際政治の対立
政治学B	1～4年	講義	後期	政治学の応用、米国の黒人差別の歴史、日米の政治体制
行政学	2年	講義	後期	行政と官僚制、ストリートレベルの官僚制、行政学と経営学
ローカル・ガバナンス	2年	講義	後期	ガバメントとガバナンスの違い
社会科学研究方法	2年	講義	前期	社会科学とは、事実と価値
社会福祉行政論	3年	講義	前期	社会福祉行政と地方公共団体
特別活動及び総合的な学習の指導方法	2年	講義	前期	特別活動と教育課程、総合的な学習の基本的性格
生徒指導論と進路指導論	2年	講義	後期	いじめ問題への対応、キャリア教育、性の問題と人権
基礎演習Ⅰ	1年	演習	通年	学生が自らテーマを決めて発表
基礎演習Ⅱ	2年	演習	通年	学生が自らテーマを決めて発表

2. 教育の理念

一般に、高校までは、暗記したり、理解したり、教えられることが中心だった。しかし、大学では、学部学科という枠は存在するが、自らの頭で考える習慣を身につけていかねばならない。講義においても、そのことを中心に構成している。例えば、現状の制度を学ぶ場合でも、現状のままでいいのか、それとも修正・改善をしていくのかなどを常に考えながら学んでいくことが望まれる。このことが当たり前になるように、自らが「考える」という訓練を日々自らに課していかなければならない。慣れないことなので、なかなか大変だと思うが、これができるようになれば、論述試験でも、卒論でもしっかりと熟（こな）せるようになると思います。もちろん、こうした行為は、主に授業中や自分で本を読んで居るときに可能であろうが、友人などおしゃべりを楽しんでいるときには、そうはいかない。こうしたリラックスできる時間については、もし考えることがあれば、時間があるときにゆったりと考えれば良い。

3. 教育の方法

1. 授業における講義

各授業のテーマごとに、問題点・疑問点を伝え、その後に関心ある問題点・疑問点を伝え、学生に考える視点を与えていく。その上で、学生の考えを尋ねる。現実にはなかなかうまくいかないが、問題点・疑問点を学生に伝え続けることはずっと続けていこうと思う。昨年度、学生の一人が2週間に1度、私の研究室まで来て質問してくれる学生がいた。授業においても、4、5回に1回、授業後に私のところに来て疑問をぶつける学生がいる。あくまで自発的なものなので強制はできないが、講義の中で繰り返し伝えていこうと思っている。

2. 基礎演習 I の場合

学生が自らテーマを決めて、そのテーマで1年間発表をするというのは、私が本学に来て4年目から続けている。1年生である学生は、一般に教員の指示待ちになれているので、初めは少しとまどうかもしれないが、ほとんどの学生はこの方法で文章力を伸ばし続けていく。原則テーマを途中で変更することは認めていないが、どうしてもという場合は認めている。自分でテーマを決め、調べるといった自主性を磨き上げていく能力を身につけた学生の未来は開かれると言って良い。数年に1人ぐらい、こうしたやり方があっていないかもという学生がいる。そうした学生でも前期中にほぼ慣れてしまう。

4. 教育の成果

1. 「学生自身の自己評価」に関して
「政治」には関心が持てない学生が多い。そのため、昨年度まで年1回弘前市議会議員を数名授業に来てもらい、身近な政治の話をしていただいている。今年度からは前期1回、後期1回来てもらい、身近な政治の話をしていただいている。学生の中には、私の講義よりもおもしろいという者もいた。
2. 「授業担当者に対する評価」に関して
平均的な評価だといえる。教員としては、より良い講義を目指していくしかないのだが、少しでも学生に政治に関心を持ってもらいために始めたのが、前述の市議会議員による授業と、10年くらい前からやっているのが、岩木山の麓で農業をしている白取さんの講義だ。これは学生の評判が非常に良い。今年度は学生にA4の用紙に感想を書かせたら、ほとんどの学生がA4の用紙が埋まるほど感想を書いてくれた。白取さんの話は、毎年重なる部分もあるが、毎年新しい情報もある。私自身、毎年聞いても面白いし楽しい。
3. 「授業内容に関する評価」に関して
授業では、外部からの講師を招いた場合を除き、レジュメと政治や社会的問題を扱った記事を配布している。私のレジュメはともかく、新聞記事の方は、まずまずの評価のようである。
基礎演習 I では、授業と同じように新聞記事をときどき配布する。毎回の発表が2ヶ月も過ぎる頃になると、コミュニケーションが活発になり、質問や意見交換が活発になる。質問の内容や、これに答えていく能力も非常に重要なものとなる。

5. 教育の改善

改善すべき点
私が毎年行っていることは、レジュメの確認と配布する新聞記事の選択です。特に新聞記事は、毎朝2つの地方紙と1つの全国紙を2時間半ほどかけて、詠みながら、切り取って行きます。切り取った新聞記事は大学で3種類に分けて行くのですが、その際に授業で配布すると良さそうな記事を再選択していきます。このようにして、私自身も世界や日本の中央の情報、そして地元の情報等を毎日触れ、学習しています。

6. 教育の目標

さしあたり、「授業評価アンケート」の結果を踏まえて、授業方法や再考し、レジユメの修正をしていきたい。1～2年後に、また修正が必要な部分があれば、修正していきたい。

これまでも述べてきたように、一度学生に考える習慣がみについたかどうか、各科目でアンケートを取り、その結果を授業改善にいかしていきたい。このアンケートは、当然ながら成績とは無関係のものであることを学生に丁寧に説明した上で実施したい。その他、後輩のために、何かこうして欲しいという希望がある場合も聞いておく。

【資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート
3. 定期試験の結果
4. 学生提出のレポート
5. 演習の発表
6. 2つの地方紙、1つの全国紙